

中国語の外来語形成のプロセスと現状

——日本語の外来語と比較して——

姜 毅然 邢 志強

目次

1. はじめに
2. 中国語の外来語形成の流れ
3. 中国語の外来語の特徴
4. 中日両国の言葉の相互影響と外来語研究の展望
5. まとめ

1. はじめに

外国や他民族との接触があれば、言葉が入ってくる。言葉は社会の鏡のように人間社会のさまざまなことを反映し、表現している。特に今日では世界のグローバル化によって、よその世界のことは毎日のように、映像やインターネットを通じて人々の視野に入る。それらの新しい事物、事柄、感覚を表現するとき、新しい言葉の誕生が伴う。日本語ではそれを「外来語」と言い、中国語では「外来詞」或いは「新名詞」（新しい単語）という。

外来語は外国語と違って、普通は、「外国語から取り入れられて同化し、自国語のように使われる語」⁽¹⁾と定義されている。現代日本語の外来語はほとんどカタカナで表記されているが、日本語外来語の翻訳の歴史を辿ってみれば漢字の音、或いは意味を利用して翻訳する時代があった。日本は翻訳の歴史が長く、昔から外国文化との付き合いの中で、漢字文化の導入、西洋文明の接触によって、音訳、意識などの方法で外来語が作られてきている。特に漢字漢語を利用して翻訳された二字漢語はそのまま中国語で使用されて、現代中国語の語彙の形成に大きく貢献している⁽²⁾。

日本と中国とは両方とも漢字を使う国であるが、言葉の構成が違うため、外来語のあり方が違ってくる。現代日本語では一般的に和語漢語と区別されて、外来語はカタカナで表記するようになっている。そのため、漢字漢語で翻訳されていた時代に比べて、外国の言葉が発音のままカタカナで日本語に入り、より外来語が発生しやすくなっている。それに対して、中国では外来語は漢字で表記されているため、語形から外来語だと判断できない一面がある。そして表意文字の漢字が表音に使われる場合の制限⁽³⁾もあって、音訳で入って定着した外来語は量的には少なく、意識で表現されることが多い。歴史的に見ると、日本と中国とでは地理的条件、民族構成、社会制度が違うた

(1) 『明鏡国語辞典』による。

(2) 文語文の中国語には単音節の語が多かったが、「白話文」運動の後、西洋文明の翻訳によって二字語が多く誕生した。その中には日本からの二字漢語が多く含まれている。

め、外来語の入るルートや語彙の選択傾向も違ってくる。

日本では日本語の外来語についての研究が多く、外来語に関する辞書も新しい外来語の増加に追って、つぎつぎ作られている。日本に比べて、中国では外来語の辞書も研究書も少なく、研究者も研究論文も大変少なかった⁽⁴⁾。1990年代に入ってから、外来語に対する関心が高まり、外来語に関する論文もじょじょと発表されるようになってきているが、それでも日本に比べて、研究論文が少ない。そもそも研究というものは社会の必要と研究者の問題意識によってなされているものが多いが、中国の場合、社会生活の中で外来語の意識が薄く、外来語の辞書が無くても人々の言語生活には不便を感じさせることは無いという日本と違う言葉事情によるものであろう。

本稿は日本語の外来語事情と比較する上で、外来語の中国語に入った歴史を辿りながら、中国の外来語の範囲、語源、定着のプロセスを整理して、その構成、意味および新語の形成の特徴を分析する上、中国語の外来語は日本語と比べて語数が極端に少ないという原因を探り、言葉の性質によって相対的に外来語の入りにくい中国語は開かれた社会の中でどういう方法で外来語を取り入れるのかを探求し、これからの更なる研究に役に立てたいと考えている。

2. 中国語の外来語形成の流れ

日本では普通外来語のことを主として、漢語以外の西欧語から入った語を指しているが、中国では違う。陸続きの多民族国家である中国は長い歴史において、西欧語からばかりではなく、シルクロードを通して入った西域の国々の言葉や、日本を始めとするアジアの国々から入った言葉、それに中国の少数民族の言葉などが漢民族の使われる言葉である漢語（中国語）に入った外来語の語源はさまざまである。中国語に入った外来語はすべて漢字によって記されているため、中国人は外来語という意識が薄い。外来語についての研究には、外国から入ったすべての言葉を研究対象とする学者と、日本から入った漢字語彙は中国語で作られた「新名詞」（新しい名詞）だけであって、外来語と見なすべきではないと主張する学者がある。筆者は前者の意見に同調し、すべての異民族から入ってきた言葉を外来語として考察の対象とすべきだと思う。このような立場から、本稿は中国の外来語が入った時期とルートによって五つの分類を試みた⁽⁵⁾。それは、1. 北方の少数民族支配時代から入った言葉、2. 宗教の伝来による翻訳語、3. 西洋の言葉から翻訳された語、4. 日本から取り入れられた西洋語の意識漢語、5. 現代社会に入った新しい言葉によって構成される。

2-1 北方の少数民族支配や民族融合によって入った言葉

現在、人口の91%以上占める漢民族の言葉である中国語は、長い歴史の変遷の中で、多民族の言葉を吸収し、融合して、漢字によって表記し、発展してきた言葉だと言うことが出来る。そして、

(3) 漢字国の人々の文字に対する意識という面もある。どうしても漢字の意味を追求して、「望文生義」（字面だけを見て当て推量の解釈をする）と言って、語の表す意味を判断する意識が強い。

(4) 辞書と研究書を参照し、研究者は1980年までには劉正氏、高名凱氏、史有為氏の名を挙げる。

(5) これらの分類は史有為氏の研究（2004年）を主に参考にしてまとめたものである。

今の公用語として使われている「普通話」(共通語)は北方語の語彙を基礎としている言葉であるために、北方民族の「鮮卑族」(6)、^{せんび}「契丹族」(7)、^{しつたん}「女真族」(8)、^{じょしん}蒙古族などのモンゴル語系の言葉と、満州語などからの言葉が多く入っている。それらの民族はいずれも歴史の一時期に戦争に勝利することによって北方地方で政権を握っていたため、日常用語のほか建国の時に使われた軍隊の将軍、将官の階級名称が史書に多く残されている。さらに元の時代になると、蒙古族は中国全土を支配し、帝国の官職、行政、各階級の人に対する呼称などが多く入っているのが考証されている(9)。それらの語は基本的には音で中国語に入り、そのまま音訳されて、史書などに残ったまま、廃れて死語になっているが、歴史を記録する言葉であるため、時代物の作品によく出ている。近年来、歴史小説、時代物の映画やテレビドラマの人気上昇によって、再び話題にのぼるようになってきている。それらの言葉の中には次の例のように、生活と関連している一部の語は、人々の言語生活に定着して、「普通話」として使われているものがある。例えば、

胡同／モンゴル語の gudum。もともと井戸の周りにできた住居という意味だが、現代中国語では路地という意味で、北京の観光スポットとして人気が高い。

戈壁／モンゴル語の gebi。砂漠。よく「茫茫戈壁」というが、限りなく広がる砂漠という意味の文学的な表現になる。

喇叭／モンゴル語の labai。ラッパ。一説は漢民族語の「螺貝 (luobei)」^{とっけつ}から突厥語 labay へ、それからモンゴル語の labai から今日の喇叭に定着した。しかし、日本語も「喇叭」が使われているが、その由来が不明である。

哈巴狗／モンゴル語の halban。愛玩犬の一種、チン、獅子犬。

猓狍／モンゴル語の silügüsü。山猫の一種。

以上の語はモンゴル系の言葉から入ったものであるが、何時の時代、どの民族の方言から入ったのかは、民族の融合と言葉の同化によって、すでに考証の尽きるところだと思われる。音声と文字からはいささか異民族の言葉の影をうかがうことができるが、すっかり漢民族の言葉に同化している。

少数民族の言葉の中で、満州語は漢民族の言葉にもっとも同化している言語と言えよう。満州族

(6) 古代北アジアの遊牧民族の一つ。モンゴル系ともトルコ系とも言われる。初め匈奴(きょうど)に服属。二世紀、全モンゴルを統一したが、のち各部族に分裂。五胡十六国時代には慕容(ぼよう)氏(燕)・乞伏(きつぷく)氏(秦)・秃髮(とくはつ)氏(涼)が華北に建国。拓跋(たくばつ)氏は北魏を建て華北を統一した。

(7) 五世紀以降内モンゴルのシラームレン河流域に現れた遊牧狩猟民族。モンゴル系でツングースとの混血種といわれる。一〇世紀耶律阿保機(やりつあほき)が諸部族を統一し、のち征服王朝遼(りょう)に発展した。契丹。

(8) 一〇世紀以降、中国東北地方東部に住んだ、狩猟・牧畜を主とするツングース系の民族。肅慎(しゆくしん)・靺鞨(まつかつ)と同系統。一二世紀初め完顔(ワンヤン)部の阿骨打(アクダ)が、遼から自立して金(きん)を建国、その系譜を引くヌルハチは一七世紀初め後金(こうきん)(のちに清朝に発展)を建てた。女真(じょしん)。

(9) 劉正淡著『漢語外来詞典』による。

は中国を支配し、最後の王朝を築いた民族であるため、満州語と漢民族の言葉と両方使いこなせる貴族たちが満、漢二種類の言語で書かれた著書と文献が多く後世に残されている。次に挙げる満州語の皇族や貴族の呼称はかつてその時代の人の身分を識別する代名詞になっていた。

阿哥 (age)／満州語 age。①清代、皇族の未成年男子に対する呼称、②満州族語の息子に対する呼称。

貝勒／満州語 beile。清代の爵位、貴族。

格格／満州語 gege。①清代、皇族の女兒に対する呼称、②貴族の女兒。

福晋／満州語 fujin。貴族の正室、漢民族語の「夫人」から説がある。

阿瑪／満州語 ama。父親。

額娘／満州語 eniye。母親。

把式・把勢／満州語 baksi。特別の技術を持っているベテランの職人。

薩其瑪／満州語 sacima。お菓子の一種。1990年代に日本の人気タレントが中国を旅行して御土産に持ち帰り、テレビで紹介され、日本で大変人気になっていた満州族のお菓子である。

喇喇蛄・拉拉蛄／満州語 lagulako。昆虫の一種で、螻蛄。

喇忽／満州語 lahu (形容詞)。性格がおおらかで、忘れっぽい。

肋膩／満州語 lete (形容詞)。服装などだらしない様。

乌拉／満州語 ula。①防寒靴の一種、雪の多いところでも平気で歩ける暖かい靴、②東北地方に野生する暖かくて柔らかい草で、乌拉草 (wulacao) とも言う。冬の長い北国では防寒用にいろいろ活用できるので、昔から地元の人々に重宝とされていた。

満州族の生れ故郷は東北地方であるから、東北方言の中には、数々の満州語の言葉が残っている。例えば、撒拉／大きいお皿。埋汰／汚い。擦喇／(形容詞) 女性が有能でてきぱき働く様。扎孤／(動詞) (病気を) 治療するというような言葉が今でも中国の東北地方で広く使われている⁽¹⁰⁾。

言語学ではモンゴル語系の言葉も満州語もアルタイ語系に属する言葉で、歴史的にはそれらの民族は地域的にも言語的にもつながりを持っていた。そのため、方言をも含めてこれらの民族から漢民族に入った言葉についての考証は至難の技であると言わざるを得ない。最近、清朝の皇室闘争を描いたテレビドラマがブームを呼び、これらの言葉も生き返ったようにふたたび大衆の言語生活に登場している。特に最近、東北方言のコメディの人気の高まるにつれて、北方方言も独特のニュアンスで人気を呼んで、親しまれている。

それ以外に、ロシア革命以降、中国の北方に移住したロシア人の言葉の影響でできた言葉には、維得羅／バケツ、布拉吉／ワンピースなどがある。これらの民族の融合によってできた語は普段の生活によく使われているものが多く、すっかり定着している。

(10) 筆者が生活していた東北地方ではこのような方言が多く聞かれるが、満州語説は史有為氏の考証によるものである。

2-2 宗教の伝来による翻訳語

中国の主な宗教は仏教、イスラム教、キリスト教であるが、宗教用語の多くは音訳で中国語に入っている。

中でも仏教の言葉は仏典の翻訳により、最も多く中国語に入り、影響も大きくて深遠なものである。仏教の伝来と仏典の翻訳とはほぼ同時に行われていたが、唐代になるまでの翻訳は主として意訳、直訳であった。唐代になってから、三蔵法師の玄奘が仏経翻訳の五原則⁽¹¹⁾を定め、仏典音訳の歴史が切り開かれ、用語の翻訳が規範化されてきた。仏典の音訳には在来の漢字が使われていたが、「僧」、「塔」のように、仏経の翻訳のために作られた漢字もあると指摘されている⁽¹²⁾。仏典の翻訳は漢字文化圏の仏教の普及に大きく貢献し、音訳された梵語はそのまま日本に伝えられているものが多い。

阿弥陀佛／梵語 Amitāyus, 阿弥陀仏。

釋迦牟尼／梵語 Saka-muni, 釈迦牟尼仏。

盂兰盆／梵語 Ullambana, 孟蘭盆。

支那／梵語 Cina, 古代中国。

舍利／梵語 Sarira, 舍利。

僧／梵語 Saṃgha, 「僧伽」から僧に定着し、出家して修行を積む人に関する言葉に僧尼、僧官、僧宇、高僧、老僧などの造語がある。

禪／梵語 Dhyāna, 「禪那 (channa)」から禪に定着し、仏教修行の主な方法の一つであるが、その後、接辞として禪師、禪宗、座禪、禪院、禪杖など仏教に関する人と事を表現する語が作られている。

塔／梵語 Thuba, Thupa, 「塔婆」から塔に定着。

涅槃／梵語 Nirvāna, 涅槃。

梵／梵語 Brahma, 「梵摩 (fanmo)」から梵に定着し、中国語では仏教に関する言葉を「梵」付けて命名するのが多く、仏経を記録する文字を梵文、僧侶が住む寺を梵宇、梵刹と言う。

曼荼羅／梵語 Mandala, 曼荼羅, 曼陀羅。

瑜伽／梵語 Yoga, ヨガ。

イスラム教は中国の回民族、新疆ウイグル族の人々が信奉する宗教である。イスラム教からの外来語は大体西域の言葉、アラビア語から入った語が多く、キリスト教は英語から入っているが多い。

例えば、イスラム教の言葉からは次のような語が入っている。

安拉／アラビア語 Allāh, イスラム教の神様, アラー。

(11) 「秘密故」「多義故」「此無故」「順古故」「生善故」である。即ち音訳の原則として、意識では伝えられない呪い多義語類、中国にないもの、そして、今までの音訳を継承、より適切な用語の選択すること。(上掲書『外来詞—異文化的使者』176頁による。)

(12) 上掲書による。

伊斯兰／アラビア語 Islām, イスラム教の名前。

穆斯林／アラビア語 muslim, イスラム教徒。

阿訇／波斯語 ākhund, ウェーグル語 ahun イスラム教の仕事をする人の呼称などである。

キリスト教とカトリック教は唐の時代から中国に入り、アヘン戦争のあと中国に広まったと見られている。主に西洋の伝教師によって伝えられたのだとされている。

阿门／ヘブライ語 āmān, アーメン。

耶稣／英語 Jesus, イエス, 救世主。

弥撒／ラテン語 Missa, ミサ, 弥撒。

亚当／ヘブライ語 Ādām, アダム。

夏娃／ヘブライ語 Hawwāh, イブ。

犹太／ギリシャ語 Ioudas, ユダ。

诺亚方舟／「诺亚」はヘブライ語 Nōah から, ノアの方舟。

耶路撒冷／英語 Jerusalem から, イスラエル。

2-3 西洋文明の翻訳によって入った外来語

中国が西洋文明を学ぼうとして西洋文明を翻訳し始めたのは明代に遡ることが出来る。最初は西洋人の宣教師が学校や病院を作るなどによって、宗教とともに、西洋の近代文明も中国に伝え、当時の中国社会に新風を吹き込んだ。宣教師たちは宗教に関する翻訳以外に、西洋文明を紹介する科学の本も百種類以上翻訳している。しかし、中国近代翻訳史に最も貢献した人は嚴復⁽¹³⁾である。彼は「信、達、雅」⁽¹⁴⁾という翻訳の三原則を打ち出して、近代の翻訳史に残され、後世に大きい影響を与えた人である。彼は唐代の玄奘法師に次いで、外国の概念をなるべく音訳するように主張して、大量の音訳の言葉で外国の言葉の概念を翻訳する模索が始めていた。

① 嚴復による外来語翻訳

嚴復によって翻訳された数々の音訳、或いは意識の術語が残され、その翻訳方法は後の翻訳の手本となっていた。仏教翻訳の訳名以来の衝撃的な実験であるため、歴史的な功績が大きい。次に挙げている語例は後の意識や音訳の元になったものもあれば、今でも使われている言葉もある。

逻辑／英語 logic, ロジック。

塔布／英語 taboo, タブー。

乌托邦／英語 Utopia, 理想の国。

图腾／英語 tutem, トーテム。

格伦／英語 gallonn, 今は「加仑」と書く。

板克／英語 bank, 銀行（今は意識の「銀行」になっている）。

(13) 嚴復（1853～1921）翻訳家。『天演論』など十余部の西洋文明を紹介する翻訳書が残されている。

(14) 「信」とは原作を忠実に、「達」とは分りやすく、「雅」とは文章を滑らかに翻訳すること。

勺克力／英語 chocolate, チョコレート（今は「巧克力」と書く）。

啤兒／英語 beer, ビール（今は「啤酒」という）。

阿里排／英語 alibi, アリバイ（今は意識で「证明不在现场」という）。

加非／英語 coffee, コーヒー（今は「咖啡」と書く）。

② 辛亥革命の後翻訳されて、定着している外来語

西洋の外来語が大量に中国語に翻訳され、定着してきたのは中国の辛亥革命⁽¹⁵⁾以降のことである。新文化運動によって西欧文化が全般に中国に紹介され、翻訳作品は科学技術の専門書から文学作品まで幅広く行き渡っている。文体も文語文から白話文になり、そこで使用されている外来語は新聞などを通して、普及し、定着するようになった。そして、西欧文化の全面輸入によって外来語は次第に専門領域から人々の日常生活に浸透し、別の言葉で表現できない概念語が非常に多い。この時期に翻訳された語のほとんどは音訳の語であるが、にもかかわらず、すっかり人々の言語生活に定着している語が多い。よく使われている語には次のような語をあげることが出来る。

A 専門用語

雷达／radar レーダー	安培／ampere アンペア
苏打／soda ソーダー	泵／pomp ポンプ
吉普／jeep ジープ	声纳／sonar ソナー
卡路里／calory カロリー	海洛因／heroin ヘロイン
尼古丁／nicotine ニコチン	荷尔蒙／hormone ホルモン
维他命／vitamin ビタミン	马达／motor モーター

B 政治と経済用語

纳粹／ドイツ語 Nazi ナチス
 法西斯／イタリア語 Fascismo ファシズム
 布尔乔亚／フランス語 bourgeois ブルジョアジー
 英特纳雄纳尔／international インタナショナル

C 文化と日常生活用語

卡通／cartoon アニメーション	探戈／tange タンゴ
华尔兹／waltz ワルツ	马拉松／marathon マラソン
扑克／poker トランプ	时髦／smart スマート
沙发／sofa ソファ	沙龙／フランス語 salon サロン

2-4 日本語から取り入れられた西洋語意識漢語

それまでの外来語は音訳で入ったものが多かったが、日本から意識漢語の導入によって、中国の外来文化の吸収に革命的な変化を生じさせた。明治維新の後、日本社会はあらゆる面において西洋

(15) 1911年辛亥の年、清朝を倒し、中華民国を樹立したブルジョア民主主義革命。

化が進んでいたため、当時の中国政府は西洋を学ぶ近道として日本に多くの留学生を派遣した。留学生たちは本格に日本文化と接触することによって、日本人が漢語で翻訳した西洋の政治、法律、経済、専門用語などを大量に持ち帰り、中国語に取り入れた。日本は中国から学んだ漢字を使う民族だが、漢籍や古代漢語による束縛が中国の知識人のようにないためか、その翻訳語は中国人には従来の中国語の音訳の言葉より非常に分かりやすいように思われた。日本人によって作られた意識漢語語彙を最初に中国に紹介し、中国で使ったのは日本から帰った留学生であったが、その後、日本の文学作品の翻訳によって入ったものも少なくない。意識漢語は中国に入ると、その出自が分からなくなるため、語数についての統計がなされていなかったが、高名凱氏の研究を基にして編集された『漢語外来詞詞典』に収録されたのは600語以上に上っている。その考証によって語の構成から以下の五種類に分類することができる。

① 西洋の言葉や概念を音読漢語に意識した語

参観（さんかん）／参观 出版（しゅっぱん）／出版 抽象（ちゅうしょう）／抽象 貯蔵（ちようぞう）／储藏 動員（どういん）／动员 基調（きちょう）／基调 科学（かがく）／科学 流線型（りゅうせんけい）／流线型 民主（みんしゆ）／民主 人権（じんけん）／人权 商業（しょうぎょう）／商业 社会（しゃかい）／社会 新聞記者（しんぶんきしゃ）／新闻记者 信託（しんたく）／信託 信用（しんよう）／信用 演説（えんぜつ）／演说 演習（えんしゅう）／演習 演繹（えんえき）／演绎 演奏（えんそう）／演奏などという音読の二字漢語であるが、日本語から引用された語彙の中で最も範囲が広くて、量も多く、収録語の90%以上を占めている。これらの漢語は語源的には翻訳によって作られた新しい語と、中国の古典から取って新しい意味を与えた語とがあるが、新語として中国語に取り入れられ、違和感なく受け入れられている。定着度の高い言葉であるため、その多くは現代中国人の言語生活に欠かせない基礎語彙となっている。

② 意味を表す漢字で訳した語⁽¹⁶⁾

吋（インチ）／吋 呎（フィート）／呎 混凝土（コンクリート）／混凝土 金剛石（ダイヤモンド）／金剛石 麦酒（ビール）／麦酒 天鵝絨（ビロード）／天鵝絨などがある。

この種の外来語の語彙は現代日本語ではすでにカタカナ言葉になっているが、かつて当てられていた意味のある用字がそのまま中国語に使われ、語として定着したのである。中には、いまでもっと分かりやすい言葉で言い換えられている語もあるが、使われ続けたものもある。以上に挙げた語例では、「天鵝絨」以外に、「麦酒」は「啤酒」に言い換えられて、「吋」、「呎」、「混凝土」、「金剛石」はそれぞれ「英寸」、「英尺」、「水泥」、「钻石」という言い換えの言葉がある。それは中国語が外部から入った言葉の場合、もっと分かりやすい訳語が現れたら取って代わる傾向によるものだと考えられる。

③ 西洋の音訳語を表音漢字で表記されたもの

(16) この種の語は漢字での意識で日本語に入るが、読みは外国語のまま、今はほとんどカタカナになっている。

基督（キリスト）、倶楽部（クラブ）、虎列刺（コレラ）、規那（キナ）など。

この種の外来名詞も現代日本語では漢字表記をやめて、規範としてカタカナで表記されるようになっていたが、中国語でも意識で言い換えられている語が多い。上の語例の中に「虎列刺」は「霍乱」に、「規那」は「奎宁」、「金鸡纳霜」になっているが、「基督」「倶楽部」⁽¹⁷⁾のように、すでに中国の共通語に定着していて、今でも使われている。

④ 日本文化を表現する漢語

茶道（さどう）／茶道、平仮名（ひらがな）／平假名、柔道（じゅうどう）／柔道、柔術（じゅうじゅつ）／柔術、雅楽（ががく）／雅楽、羊羹（ようかん）／羊羹、たたみ／榻榻米など、わりと早い時期に日本文化とともに中国語に入った言葉で、日本しかない物や文化を表現する用語であるが、中には「羊羹」のようにすっかり中国に定着して中国の天津を中心に北方の人々に親しまれる代表的なお菓子になったものもある。

⑤ 漢字で表記する和語

貸方（かしかた）／貸方、出口（でぐち）／出口、読物（よみもの）／读物、副手（ふくて）／副手、広場（ひろば）／广场、入口（いりぐち）／入口、手続（てつづき）／手续、打消（うちけし）／打消、組合（くみあい）／組合、取締（とりしまり）／取締、見習（みならい）／見習、引渡（ひきわたし）／引渡、場合（ばあい）／場合など、漢字で表現する和語が中国語に導入した語である。中国語に入ってから意味によって名詞になったり、動詞になったりする。

その他には「おばさん」を「奥巴桑」に訳して、西洋語と同じように音訳して中国語に入った言葉もある。中国改革開放のここ二十数年も日本から数々の言葉が入っているが、いずれも以上に挙げたタイプの種類の語を超えるものがないようである。

2-5 現代社会に入った新しい翻訳の言葉

中国は植民地、半植民地、戦争、社会主義建設、文化大革命、改革開放を経て、今では最も開けた情報時代の社会を迎えた。相対的に閉ざされていた中国は情報化社会に入り、現代社会と現代人の生活を反映する新しい言葉がメディアやインターネットを通して人々の言語生活に入る。社会の変動が大きいことによって、外国から多くの新しい物事、社会のあり方を反映する言葉も毎日のように入ってきている。中国人はいままで培った言葉の習慣で外来の言葉を音訳したり、意識したりして中国語に取り入れている。過去の時代に比べて、外国語の中国語への転換が速いこと、英文略語の大量の直接引用は現代中国語における外来語の流入の特徴と言えよう。以下は日本語の外来語と対照しながら、中国人の生活を反映する新しい言葉の一部をあげて、現代中国社会の外来語の構成を概観しよう。

① アルファベット語から入った言葉

A インターネット用語

(17) 日本語の意味とはちょっとずれている。中国語では集団で集会や娯楽などで利用される場を指す。

密碼/password パスワード, 网站/site サイト, 访问/access アクセス, 网吧(wangba)/Internet cafe インターネット・カフェ, 网页(wangye)/home page ホームページ, 软件/software ソフトウェア, 硬件/hardware ハードウェア, 硬盘/hard disk ハードディスクなど。

B その他の現代用語

唐人街, 华人街/チャイナタウン (Chinatown), 24小时方便店 (24xiaoshifangbiandian)/convenience store コンビニエンス・ストア, 十佳/best ten ベストテン, 软着陆/soft landing ソフトランディング, 倾销/dumping ダンピング, 女招待/hostess ホステス, 快餐(kuaican)/fast food ファーストフード, 旅游鞋(lüyouxie)/sneakers スニーカー, 按揭(anjie)/loan ローンなど。

② 日本語から入った言葉⁽¹⁸⁾

A 音訳の言葉

卡拉OK/カラオケ, 乌冬面(wudongmian)/うどん, 一级棒(yijibang)/いちばんなど。

B 意識の言葉

计件工资/出来高給, 上市公司/上場企業, 一日游(yiriyou)/日帰り旅行, 不动产→房地产(fangdichan)/不動産, 头金→首付款/頭金, 家用轿车/自家用車, 白色家电/白物家電など。

C 漢語語彙の導入

日本料理/日本料理, 納豆/納豆, 天婦羅/天妇罗, 寿司/寿司, 弁当/便当, 花道/花道, 空手/空手道, 相撲/相扑, 物流/物流, 景气/景气, 不景气/不景气, 指数/指数, 營業中/營業中, 冷氣開放/冷氣開放, 新登場/新登場, 芸能/芸能, 瘦身/瘦身, 写真/写真, 玄関/玄関, 日本企業/日本企業, 研修生/研修生, 過勞死/過勞死, 人間蒸發/人間蒸發, 援助交際/援助交際など。

③ 英文略語⁽¹⁹⁾

A アルファベット語と翻訳語との併用

WTO&世贸組織, APEC&欧佩, GNP&国民生产总值, GDP&国内生产总值, UFO&飞碟, 天外来客, SOS&呼救信号, WC&厕所, VCD&VCD碟, DVD&DVD碟(die), CD&CD光盘, LD&LD光盘など。

この種の語は日本語と同様にアルファベット語と翻訳語とは両方とも使われ、併用されている。前者は文字で書く場合が多用され、話し言葉で表現する場合においては、後者が多用される傾向が

(18) 前掲の『漢語外来詞典』に収録されていないが、インターネットで調べてみると例文が多く出ており、わりと新しく中国語に入った語彙である。

(19) 中国語では「字母詞」という。それ以外にAPEC, ATM, BBC, B2B, BBS, CCTV, CDB, DJ, DNA, E-MAIL, EQ, FAX, FM, GDP, GNP, GRE, HSK, IQ, ISO, IT, JF, JP, KGB, KTV, LD, MBA, MTV, NBA, NHK, NMD, OA, OK, PIN, QC, ROM, SOS, TMD, TOEFL, TV, UFO, VCD, VIP, WAP, WWW, XO, Y2K, ZIPなどがあるが、これらの語は翻訳語と併用されるものが多い。『字母詞詞典』(劉泉湧上海辞書出版社2001年)に2000語収録されている。

ある。

B アルファベット語に属性の漢字訳語を付けたもの

AA 制／割勘, B 超／超音波検査, K 房／カラオケボックス, SOHO 族／(small office, home office) ホーム・ビジネス, SOS 村／SOS 児童村, T 恤衫 (～xushan)／T シャツ など。

この種の語は中国独特の翻訳なので、アルファベット語を見ても意味を判断することができない。特に、「SOS 村」のような発展途上国にしかない施設や「SOHO 族」のような中国でモダンなビジネスを意味する言葉など、日本語には適当な訳語が見つからないものもある。

このような訳語が生まれたのは中国社会の開放度を反映して、短期間の間に大量に入ってきたためであろう。また、現代の情報化社会において世界共通の概念は共通の言葉で言い換えられるようになってきているため、中国語の外来語の中で英文略語は各分野での活用が非常に増えている。中国語は漢字で表現するため、一つの言葉の翻訳は音訳、意識で定着するまでには少し時間がかかる。しかし、簡略で明快な英文略語のままの引用は、便利で分かりやすいので、定着するのが速い。そして、英語教育の普及と人びとの生活の多様化につれ、英文略語がもっと増えるのであろう。

3. 中国語の外来語の特徴

日本語の外来語と比べて、中国語の外来語の特徴は語の構成、言葉の翻訳、語の形態、語の意味、外来語の意識という5つの側面から分析することができ、次のような特徴が見られる。

3-1 語の構成の特徴

外来語は民族間、国家間の接触によってできた言語であるため、陸続きの多民族国家の中国は外来語の構成成分が日本語に比べて語源の分布が広い。本稿の I の部分に述べたように、欧米からの西洋語の言葉、日本語の言葉以外に、シルクロードから西域の言葉、北部から騎馬民族の言葉が漢字で音訳されて中国語の共通語に入っている。すなわち、中国の外来語は、単純に外国語から入った言葉ではなく、少数民族の言葉から入った語もかなりある。そのため、いま使われている「普通話」である中国語は多民族言語の集大成だと言っても過言ではない。さまざまな言語から入った言葉が漢字で書かれ、言い伝えられて、やがて中国語に同化している。各地の方言に少数民族の言葉が多く入っているが、北方民族の言葉が北方方言になって全国に広まっている。外来語は中国人の言語生活を豊富にし、日常に使われているため、中国語から切り離すことのできない言葉となっている。語源の分布によって、中国では地域によって使われる外来語の語彙が違う傾向が見られる。

3-2 翻訳の特徴

中国語は外来語を取り入れる場合、音訳と意識という二種類の翻訳方法を取っている。

① 固有名詞の音訳

西洋語で表記する人名、地名、企業名、ブランド物の商標名が原則として音訳であるが、企業名などが長い場合、意識によって短縮化される例が見られる。例えば、企業名の音訳には、ER-

ICSSON (エリクソン) / (スウェーデン) 愛立信, NASDAQ (ナスダック) / (ニューヨーク) 那斯达克, DISINILEYUAN (ディズニーランド) / 迪斯尼乐园, kentucky Fried Chicken (ケンタッキー・フライドチキン) / (アメリカ) 肯德基家乡鸡, ブランド商標の音訳には Gabrielle Chanel (シャネル) / 夏奈尔, PARKER (パーカー) / 派克, PUMA (プーマ) / 瓢马など, 意識によって短縮化される企業名には, Microsoft (マイクロソフト) / (アメリカ) 微软, Volkswagen (フォルクスワーゲン) / (ドイツ) 大众などがある。

日本語の場合, 普通漢字ならそのまま表記される。例えば, 小泉純一郎は「小泉純一郎」, 大阪は「大阪」, 「松下電器」は「松下电气」, 「象印」は「象印」など, 中国語の簡体字(略字)に直して中国語で読む。ただし, 西洋文字表記の名称は中国語にないものなら音訳が多い。例えば, ソニー (Sony) / (日本) 索尼, カシオ (Casi) / (日本) 卡西欧, キヤノン (Canon) / (日本) 佳能のような日本の企業名は西洋語と同様に音訳された漢字で表現する。ちなみに日本も中国の人名, 地名, 企業名などは漢字で表記していたが, このごろ, カタカナで表記する傾向が見られる⁽²⁰⁾。

② 音訳用字のゆれと定着

音訳語は用字の規則があるわけではなく, いくつかの用字で表記し, 最後に社会に広く使われるようになったものが定着するケースが多い。それは中国語の漢字は同音語が多いことと, 方言で発音すると音声が変わってくることによるものだと思う。例えば, フランス語の「coup d'état」は(日本語ではクーデター)音訳で「苦推打」「苦铁打」, 「苛铁打」, 「古迭打」, 「苦斗达」, 「苦叠打」を経て, 「苦迭打(kudieda)」に定着していたのである⁽²¹⁾。それぞれの用字の発音が類似しているが微妙に違っている。「苦叠打」と「苦迭打」の「叠」と「迭」とは同音異義である。

匈奴語から入った言葉の「胭脂」⁽²²⁾は, 史書には「燕支」, 「焉支」, 「燕脂」, 「胭脂」との記載があって, いずれも同音異義の文字であったが, 現代中国語に定着しているのは「胭脂」である。また, 中国大陸と香港, 台湾の歴史経由や地域と方言の差によって, 外来語の訳語の違いが生じている。例えば, 「シンガポール」は大陸では「新加坡」, 香港では「星嘉坡」, 台湾では「新嘉坡」となっている。中国と台湾は同じ共通語であるため, 発音が一緒で違う漢字が使われているのに対して, 香港のほうは違う発音の漢字が使われている。香港の中国返還と, 大陸と台湾の交流が頻繁になるにつれて, 今後は翻訳語の用字が統一されると思われる。用字の問題は音訳の外来語に限って問題になり, 意識語は中国語圏においてはコミュニケーションの上では問題にはならない。

③ 音訳用字の選択

A 意味を添えるための漢字の選択

音訳は漢字を表音文字として使うが, 漢字の表意文字の特徴を利用して, 外来の物の名称を音訳する場合, 常に文字の選択に字形を考えて, 意味を添えるように漢字を選ぶ工夫がなされている。

(20) 例えば人名は国家元首は漢字であるが, 芸能界など一般人はカタカナのほうが多い。地名は漢民族地域は漢字で表記されているが, 少数民族地域の地名はカタカナが多い。

(21) クーデターは「苦迭打(kudieda)」を経て, 日本語の意識の「政変」となっている。

(22) 『史記・匈奴列伝』と『漢語外来詞詞典』による。

場合によっては、翻訳のために新しい文字を創出することもある。

例えば、英語から音訳された咖啡／コーヒーは「飲み物」を意味する「口」偏と音声を表す「加」と「非」からなり、檸檬／レモンは植物を連想させる「木」と音を表す「宁」「蒙」からなっている。西域のイランから入った言葉の「葡萄（ぶどう）」は「艸」冠が草からできた果実という印象が与えられる。そして匈奴の言葉から翻訳された骆驼／駱駝は偏の「马」が「馬のような動物」をイメージさせる。そのように、意味を表す偏と音声を表す字とで作った漢字で外来語の音訳に多用されている。そして、この種の翻訳は漢字文化圏に通用するものが多く見られる。

B 音訳語に物の属性を意味する言葉

音訳語が分かりやすいように、意味を表す語を添えて訳す方法が取られている。例えば、bier（ビール）／啤酒, champagne（シャンパン）／香槟酒, ballet（バレエ）／芭蕾舞, boring（ボーリング）／保齡球 (baolingqiu), sarding（いわし）／沙丁魚などの語について「酒」、「舞」、「球」、「魚」は物の属性を表す造語成分となっている。

日本語の場合も同じような現象が見られる。例えば「チェーン店」がそれであるが、語例が少ないようである。反対に「中国ブーム」「人材バンク」「野球ファン」のような外来語で属性を表す言葉が付いている例がより多く見られる。これは中国語に属性を現す抽象名詞が豊富であることと、認知習慣によるものと思われる⁽²³⁾。

C 漢字の意味を伴った音訳

漢字の音声と意味とを結び付けて翻訳するような方法がある。例えば、飲料のコカコーラを「可口可乐」に、口に合う、楽しい飲み物という意味で、トラクターを「拖拉机」に、引く張っていく機械である。マンゴを「芒果」, 「芒」という草冠の漢字と果物の意味の「果」という漢字の選択によって外国の言葉のイメージがまったく分らなくなる。コンピューターを攻撃する「ハッカー」を「黑客」に、それこそ「招かざる怖いお客さん」という意味になる。このように、意味に似せて音訳された語が中国語的な翻訳で、中国社会で最も定着しやすい音訳語になる。

④ 普通名詞の意識

中国語の外来語は日本語と比べて、最も大きな違いは意識語が多いことであると言えよう。それは以上に挙げた専用名詞、中国にない物の名称以外、普通に使われる語が基本的に意識されるためである。

意識語が多いことは、中国語に使われている漢字は造語力と表意性が強いことによるところが大きいと思われるが、中国人の言語習慣によるものもあると考えられる。中国人が長い歴史の中で、絶えず文字を学び、研究してきた民族であるため、言葉については意味を追求する習慣があり、意味のない音訳語にはなじまない面がある。そのため、外来語は、最初から意識で中国に入る場合、たちまち中国語に同化するので、ほとんどの中国人が新しい言葉として受け入れ、外来語として意識しないのである。

(23) 中国語は属性から物を認知する言葉である。例えば、玫瑰花、杨树などの「花」と「树」。

さらに、始めは音訳で入った外来語でも、普通に使われるようになったら、意識語によって取って代わることが多い。近代中国語に入った西洋語の音訳語は日本語の意識漢語が導入されると、取って代られたように、そのような現象は現代語にも見られる。例えば、

ペニシリン→盤尼西林→青霉素

ビタミン→维他命→维生素

インターネット→英特网→互联网

イーメール→伊妹儿→电子邮件

ミニ→迷你→微型

カシミヤ→开司米→山羊绒

新しい概念や事物を日本人は常にカタカナ言葉で表現するのに対して、中国語はだいたい意識された言葉で表現する。次に挙げる語例は和製外来語が中国語に転換する場合の翻訳例である。

スリー・サイズ／三围、テーブル・スピーチ／祝酒辞、テープ・カット／剪彩、ゴム・テープ／胶带、クール・ビズ／清凉办公など。

3-3 形態的な特徴

中国語の外来語の表記は日本語と違って、漢字、漢字英字混じり書き、アルファベット略語の三種類がある。中国語の外来語は基本的には漢字によって表記されているため、形態的に見分けがつかないとされている。中国語は、日本語のカタカナ言葉のような表音文字がなく、全て漢字語になるので、語形から外来語であるかどうかは判断できないのである。漢字の性質から、中国語の外来語の語形が短く、特別な言葉以外は四字以内で構成されているのが普通である。音訳語より意識語のほうが定着しやすい。日本語から入った二字漢語は中国語にとって最も受け入れやすく、安定している意識語のタイプだということができよう。

近年来、英字交じりの書き方が現れている。例えば、日本語から入った和製外来語の「カラオケ」は「卡拉OK」と英字交じりで表記されている。または「X線」はかつて「爱克斯光」と漢字で書かれていたが、今ではほとんど「X光」と書くようになっている。

中国社会の国際化に従って、アルファベット略語が増えている。簡単で分かりやすい言語記号として中国語社会に受けている。いままで中国語の伝統的な正書法によって、同一文章の中には違う文字が使われていなかったが、欧米文化の影響とインターネットの普及によって、中国の正書法が変わりつつある。このように、中国語の中で、漢字英字混じり書き、アルファベット略語だけが形態から外来語を判定することのできる語彙と言えよう。

3-4 意味的な特徴

日本語のように一つの物事を二つ以上の言葉で表す、といったことは中国語ではほとんど見られない。したがって、一つの現象は二重も三重もの言葉で表現する習慣はないため、普通、漢語にある概念や物事は外来語を導入して表現する習慣はない。中国語では中国にない外部からの新しい概

念、新しい事柄を外来語で表現するのが増えているが、日本語と違って⁽²⁴⁾、感情、感覚、気持ちを表す外来語の借用は非常に少ないようである⁽²⁵⁾。それは中国人の言葉についての感触は音声だけではなく、あくまでも文字で意味を追求する習慣によるものと思われる。そして、外来語は漢字で入るから、音訳よりも意識が多く、外国語の知識のない人でも分かるように工夫されているものが多い。中国人が文字で意味を判断する言語習慣によって、音訳語は意味に通じるような用字を使うのが定着しやすく、読み方がむずかしく文字の意味がよく分からない音訳語が淘汰される傾向が見られる。

4. 中日両国の言葉の相互影響と外来語研究の展望

中国はいままで相対的に閉ざされていた国であったが、国際社会の一員として、世界への進出や国の発展の必要に応じて、外来語がいま以上に必要となり、各専門分野においてもよりたくさんの外国語の言葉を借用することであろう。インターネットの普及により、これからも中国は欧米、日本から新しい言葉は入ってくると思われる。そして、経済発展を求めている中国はかつて欧米や日本の辿ってきた道を歩まなければならないため、いままで中国社会になかった現代社会のさまざまな現象、問題などが発生し、国際社会に起きている事件にも直面しなければならないから、世界共通概念を表す言葉は不可欠になる。現に、「恐怖主義」/テロリズム、「反恐」/テロリズム反対、反テロリズム、「联合国维和部队」/国連平和維持部隊、「禽流感」/鳥インフルエンザ、「朝和六方会谈」/朝鮮六方協議など、毎日のように新しい言葉が翻訳されているが、これからも中国語の外来語は翻訳語を主流として、日本からは意識漢語、欧米から英字短縮語がますます増えることであろう。

中日両国の外来語の翻訳を比較して分かることは、ともに漢字を使う両国の間は言葉の接触による借用が行なわれることは自然かつ必然的であると言えよう。二十世紀八十年代に中国語の「熱烈歓迎」、二十一世紀に「電腦」⁽²⁶⁾というような言葉が日本語に入っているし、インターネットでは「退休」⁽²⁷⁾（定年退職）、「午睡」（昼寝）という言葉が使われているのに目に付く。それに対して、中国では最近「过劳死」（過労死）、「卖春」（売春）、「交际援助」（援助交際）⁽²⁸⁾などというような言葉がインターネットを通して広まっている。それらはいずれも相手国の言葉をそのまま導入して、同じ意味で使われている。昔と同じようにこれからも中日両国は漢字で表現する言葉の相互引用が発生すると考えられる。

中国社会では日本語から翻訳された言葉と直接引用されている言葉が多く使われている。それは

(24) 日本語には「シンプル」、「パフォーマンス」、「チャタリング」、「センス」などといった感覚、感情を表す外来語が多く見られる。

(25) 「幽默」（ユーモア）、「酷」（クール）のような語例もあるが、少ない。

(26) 「電腦辞典」など、複合名詞として使われることが多い。

(27) 矢吹晋先生退休記念・21世紀中国総研発足 http://www.21ccs.jp/start_celebration/start_celebration_00.html による。

(28) 中国の「sohu」による。

中国と日本の間のさまざまな交流と経済活動が活発に行われていることによるものだと考えられるが、経済発展レベルの高い日本が物的と精神との両面から中国に与えた影響が言葉に現れていると思われる。そして、同じ表意文字の漢字が使用されていることによって、中日両国の間では一部の語彙の相互利用が可能にされている。社会のグローバル化により、異国に起きたことや社会現象が短時間内に言葉を媒介にして伝わってくる。そういう場合、同じ漢字を使う日本語の言葉は最も入りやすくなる。また、いままで中国社会になかった社会現象は、日本ではすでに発生し、言葉の概念を持っている語はそのまま中国語に用いられている。例えば上掲の「過労死」、「人間蒸発」という言葉がそのまま導入されているのも、実際にそういう現象が中国社会に起きているか、起きる恐れがあるからであろう。

また、英語短縮語による表現が増えると思われる。いまでは、中国のインターネット利用者の間、ネット専用の英語短縮語が普通に使われている。例えば、ASAP: as soon as possible/なるべく早く、BTW: By the way/ついでに聞きたいが、BF: boy friend/ボーイフレンド、BBL: be back later/すぐ帰ってくる、CU: See you/じゃ、また。などというように、英語教育の普及によって、このようなネット用英語短縮語がインターネットを通じて、広まっていくことが予想される。

5. ま と め

歴史的に見ると、日本と中国とでは地理的条件、民族構成、社会制度が違うため、外来語の入るルートや語彙の選択傾向も違ってくる。日本語は外来語の大量導入によって、言葉の表現が豊富になった反面、外来語氾濫の現象が発生し、分かりにくいという指摘がある。それに比べて、中国語のほうは言葉の習慣や漢字を使うことによって、語形が短く、意味のある漢字で表記される語が多いため、安定性が高く、分かりやすいという特徴を指摘することができる。

前に述べてきたように、現代日本語の外来語はカタカナで表記するのに対して、中国語のほうはすべて漢字表記なので語形では外来語の判断ができないうえ、意味のある漢字で表現する語が多いため、中国語に翻訳された外来語はたちまち中国語の中に溶け込んでしまう。そのため、中国人は外来語という意識があまりなく、全体として新しい言葉として受け止める。特に意識語は違和感がないため、はじめから中国語化されていると言ってもいいぐらいである。そのため、語数的には日本語に比べて極端に少ないようになる。それは中国語のほうは言葉の性質によって相対的に外来語が入りにくいだけでなく、歴史的に見て、両国の外来語についての受け止め方による部分が大きいと思われる。それは、中国は外来語→漢字表記新名詞→中国語に定着→外来語の身分が薄くなって消える→外来語の減少につながり、日本は漢語に意識→カタカナ読み漢字表記→カタカナ表記→外来語の身分をいっそうはっきりする→外来語の増加につながるのであろう。

中国人は外来語の意識が薄いため、翻訳された言葉は「新名詞」(新しい言葉)として登場し、使われているうちに「新名詞」でなくなり、普通の言葉になる。つまり、使っているうちに翻訳されて入った言葉、外来語という身分が分からなくなり、中国語の在来語彙に同化してしまう。そし

て、音訳で入った言葉も意識で定着する語が多いため、外来語の減少につながる。一方、日本語のほうは翻訳の方法は漢字による意識から、漢字表記カタカナ読みに、現代日本語はすべてカタカナ表記になっているので、形態的には外来語としてはっきりしている。そして、カタカナという表音文字によって、外来語は非常に入りやすいので、外来語の増加につながると思われる。

グローバル化社会においては外国語の言葉がどんどん入ってくる。日本では外来語の氾濫に悩まされて、国立国語研究所の専門家による言い換えの研究が行なわれるのに対して、中国のほうは漢字の外来語表記の不便さを感じて、英文略語が増え、英語短縮語がインターネットに使われる現象が現れている。これからも中国語はこのような形で欧米からの言葉を借用するであろう。それに、中日両国間の言葉の借用が続くことであろう。

中国語の外来語の史的概観を通して、外来語の言葉が入る時期によって、異文化との交流の歴史を感じさせられる。しかし、ほとんどの外国からの言葉は中国語に訳されると、中国語化された単語になるため、外来語についての意識が薄く、方言や少数民族の言葉についての個別研究が行われているが、外来語全般にわたる研究の著書がまだ少ない。中国の外来語の研究として『現代漢語外来詞研究』や『漢語外来詞詞典』、最近では『外来詞—異文化的使者』が出版されている。これらの研究は中国語の語彙研究に新しい分野を開いたことに貢献し、自国の言葉について再認識する上で非常に大きな意味を持っている。最近、中国国内の言語学研究が盛んになり、「新詞新語」のような著書も増えている。それらの研究を通して、中国人自身が中国語の言葉をより客観的に認識していけば、外来語の研究についての関心も高まってくるであろう。しかし、中国語の形成の歴史が長く、構成が複雑なため、外来語の認定範囲、意識語と新語との境界線など、中国語の外来語の研究に難しい課題が多く残っているが、拙論は中国語の語彙研究に少しでもヒントを与えることができれば幸いである。

(姜毅然氏は北京工業大学外国語学院日本語学科の講師である。)

参考文献

1. 王力『王力文集』(第22巻)、山東出版社、1986年
2. 岑運強『言語学概論』、中国人民大学出版社、2004年
3. 史有為『外来詞—異文化的使者』、上海辞書出版社、2004年
4. 鈴木義昭・王文『中国語の外来語辞典』、東京堂出版、2002年
5. 石綿敏雄『外来語の総合的研究』、東京堂出版、2001年
6. 劉正・高名凱・麦永乾・史有為『漢語外来詞典』、上海辞書出版社、1984年